

研修を終えて

医学部医学科 2 年 071300716 寺島まり絵

1. はじめに

私はこの春、2 週間の間ストラスブールに語学研修へ行った。研修に行くことも、2 週間という長い間フランス語圏で過ごすことも初めての経験であった。この研修で獲得したことをいくつか述べたいと思う。

2. 研修で得たこと

(1). フランス語での会話の上達

この研修における第一の目標はフランス語の上達であったが、研修を終えて以前よりずっとフランス語を話すことができるようになった。以前はあいさつくらいしかできることがなく、単語や文の作り方は知っていてもそれをどのように使えば会話ができるのかわからなかった。出身や趣味のことを聞いてもどうしたら話を続けられるのか見当がつかず、また自分の語彙力にも自信がなかった。2 年後期の授業が終わった後に、ボーメール先生がフランス語履修者で集まって夕食をとる機会を作ってくださったのだが、そのときは全くフランス語で話すことができなかった。同じ授業を受けていた留学生ともほとんど会話をすることができなかった。相手が日本語を話せるとわかっていたのでどうしても日本語を使ってしまふところがあり、せつかく友人がフランス語で話しかけてくれても戸惑ってしまうばかりであった。

これはもっと勉強しなければならぬと思いたち、出発前に単語を中心にフランス語に時間を割いた。そして現地の授業には積極的な態度で臨んだ。20 人ほどの少人数のクラスだったので、思っていたより発言しやすい環境だった。またクラスメイトがフランス語で話すのを見てよい刺激を受けた。IEEF の先生や案内してくださった方々と会話することで少しずつどのようにフランス語を話せばよいのかわかるようになった。特に研修 3 日目にあった日本科学生との交流で知り合った生徒と話をしたことが大いにフランス語の上達に繋がった。仏語でのプレゼンテーションの後に設けられた交流のための時間が、私にとって初めてフランス語で長く会話する機会となった。彼らとの交流はその日だけに限らず、その後の滞在期間中にも夕食を食べに行ったりストラスブールを案内してもらったりした。お互い話しぶりがたどたどしいところがあり、またそれをお互いが理解しているので彼らとはとても話しやすかった。もちろん流暢に日本語を話す生徒もいて、よくフランス語の文法や発音を直してもらった。帰国後も大学で出会った友人とのフランス語でのやりとりは続いており、少しでも上達しようと辞書を片手に精進している。

(2). フランス人の文化

フランスに 2 週間も滞在するのは初めての機会であったので、フランスの文化には多く気づかされることがあった。

まず、フランスのお店はみな、朝早く開店し夕方早くに閉まる。これは日本とかなり異なる。朝町に出てパン屋さんやスーパーが 8 時頃にはもうやっていることにとっても驚いた。パン屋さんには 6 時に開店していた。フランス人はなんて働き者なのだろうと思ったのだが、夕方になると困ったことが起こった。19 時でほとんどのお店が閉まってしまうのである。これは、日本のように 24 時間コンビニが開いていて、デパートも 20 時までには開いているのが普通であると思っていた私の中の常識を覆した。しかし、これはよいことだと思った。早くに仕事が終われば家に帰って家族と過ごす時間が増えるし、夜早く寝ることにも繋がるので健康によい。私を含め日本人は夜遅くまで起きている人が多く、場合によっては深夜 0 時以降も働いている人もいる。これは健康に悪影響を及ぼすので、フランスを見習うべきだと思った。24 時間お店が開いているのは確かに便利かもしれないが、夜働く人がいなければ夜に開店している必要もなくなる。日本語の「過労死 karoushi」は海外でも通じる言葉となっていると聞いたことがあるが、このような日本の習慣が原因の一つになっているのではないかと思った。とりあえず私は朝遅く起き夜遅く寝てしまう習慣があるので、フランス人を見習おうと思った。

次に、またお店の話であるが、日曜日になるとこぞってお店が終日閉店しているということに驚いた。私は日本では日曜日は家族と買い物をしたりごはんを食べに行ったりするので、一体フランス人は日曜日に何をするのかと不思議に思った。また、日本では日曜日はお店にとって稼ぎ時であるので、閉めてしまうなんてもったいないとも思った。ホームステイ先の方に日曜日は何をするのかと聞いてみたところ、ストラスブールの人々は家族で車に乗って町の外、例えば山などに出かけに行くのだと聞いた。家族との時間を丸一日とることはよい文化だと思った。

そして、フランスに日本の文化もたくさん入っていることにも驚いた。ストラスブールには寿司やラーメン、お好み焼きなどの日本料理を提供する店がいくつもあった。また、本屋には日本の漫画や映画が多く置いてあった。日本語学科の生徒には日本の漫画が好きだから日本語を勉強している生徒や、漫画を読んで流暢な日本語を身につけた者、さらには漫画家を目指している学生もいた。今まで日本食やサブカルチャーが外国に認められているという実感がなかったが、この研修で目の当りにすることとなった。そして、日本の文化は世界に誇れるものであると気づかされた。

(3). 様々な日本人学生との交流

最後にこの研修で獲得したことに、様々な学部日本人学生との交流をあげたい。私は医学部医学科の学生で授業の多くを鶴舞キャンパスで受け、部活も医学部のものに入っており、この 2 年間他の学部の学生と交流したことがほとんどなかった。そのため、今回の研修で他学部生と話をすることができとてもよい刺激を受けた。趣味や将来やりたいことが異なる人と話をすることはとても新鮮であった。例えば、なりたい職業は決まっていないが学びたいことがあるからという理由で学部学科を選んだ学生が何人かいた。これは医師になりたいから医学部に入った私とは進学した理由が少し異なると思った。また、フランス語を学んでいる理由もそれぞれ異なっていて興味深かった。私は従姉がフランス人と結婚したため、彼と話せるようになりたいと思いフランス語を選択し、フランス語話者と話がしたいというのを一番の目的として勉強している。しかし、ある学生は、例えば好きなフランス人作家がいて、その著作を原本で読みたいからという理由で学んでいた。このことを聞いて初めて、日本語訳を読むのでは必ず失われるニュアンスがあることに気づかされ、今まで会話のためばかりを意識していたが、原書で本を読むということに興味を持つことができた。また違う学生は、自分は英語が得意なので、英語と似ているフランス語を選んだと言っていた。それまで単語は英語と少し似ていると思っていたがあまり意識していなかったもので、これから勉強する上でポイントになるかと思った。

他にも自分の夢や勉強している内容を熱心に教えてくれた人がたくさんおり、私も彼らのように自分の専門分野についてもっと深く知り、他の人に教えてあげられるようになりたいと思った。4 月からはより専門的で臨床的な内容を学ぶことになるので、いっそう励みたいと思った。

3. 結論

研修に出発する以前は、フランス語の修得を目的としていたが、実際にはそれ以上のことを得ることができた。語学を学ぶ楽しさを知ることができたので、またどこかに留学したいと思っている。フランス語の勉強はこれからも続けていきたい。